

# 平成25年度小松島市事務事業評価シート

## ■事業の位置づけ（基本事項）

整理番号				4 - 2 - 15					
事務事業名		金磯地区まちづくり事業				担当課係		都市整備課	
総合計画上の位置付け	大項目	6. 「街が輝く」				記入担当者			
	中項目	②魅力ある都市基盤の整備				内線等			
	小項目	1. 中心市街地・周辺市街地の計画的な整備				E-mail			
事業の実施主体		市（委託・補助事業含む）				事業区分		経常事業	
事業予算費目	款	8 土木費		項	7 都市計画費				
	目	4 金磯地区まちづくり事業費		事業	2 金磯地区まちづくり事業				
開始年度		昭和 58 年度		根拠法令・要綱等		小松島市まちづくり条例、金磯地区開発行為等施行基準要綱			

## ■事務事業の概要（実施内容）

事業の対象	(誰の、何のために事業を実施するのか) 金磯地区まちづくり計画区域内の住民
事業の目的 (意図)	(事業実施によってどういう状態にしたいのか) 金磯地区基本計画の区域内における公共・公益施設を整備し、市と住民の相互協力により金磯地区の住み良いまちづくりの実現を図る。
事業の内容 (内容・手法等)	(どういった仕事の内容で、どのような手法・手順で実施しているか) 金磯地区基本計画区域内における道路や水路等の整備及び維持管理を実施する。
事業の背景 (経緯等)	(事業開始の背景やこれまでの経緯) 昭和57年度まで金磯地区まちづくり計画区域内は開発規制がなされていたが、昭和58年4月より金磯地区開発行為等基準要綱が施行され、開発行為等の施工者が一定の条件を満たすことにより、当区域内での建造物の建築が可能となった。これに伴い、市が所有する道路や水路の整備を実施していくこととなった。

## ■事務事業の業績・推移（目標・実績）

		指標名		指標の説明				指標化できない成果
		開発行為及び建築行為届の状況		寄付行為を伴わない開発・建築行為を含む				
成果指標	単位	H24	H25	H26	H27	将来目標 (年度：平成)		
	m <sup>2</sup>	目標	3,000	3,000	3,000	3,000		
		実績	1,160	5,842				
		達成度	38.7%	194.7%				
活動実績・参考となる指標	指標名		単位	H24	H25	H26	H27	指標の説明
	不動産鑑定評価	箇所	計画	1	1			開発者負担基準額算定の根拠
			実績	1	1			
	工事借地料	件	計画	1	0			
			実績	1	0			
			計画					
実績								
			計画					
			実績					

## ■事務事業に係るコストの業績（目標・実績）

(単位：円)

		24年度決算	25年度決算	26年度決算	25年度予算	
全体コスト (円)	A 直接事業費	3,503,319	3,666,700	0	13,913,000	
	財源内訳	国県支出金	0	0		
		地方債	0	0		
		利用者負担	0	0		
		一般財源	3,503,319	3,666,700		
	B 人件費 ①×②	1,495,414	1,315,397	0		
	職員平均人件費①	7,477,071	6,576,983			
従事した割合②/人	0.20	0.20				
A + B	4,998,733	4,982,097	0			
単位コスト	活動指標の説明	不動産鑑定評価：1件	不動産鑑定評価：1件		備考	
	活動指標1単位当たりコスト	4,998,733	4,982,097		平成24年4月1日現在 人口40,876人 平成25年4月1日現在 人口40,733人	
	市民一人あたりのコスト	122	122			

■事業を取り巻く環境

国・県・他団体の動向や環境変化と今後の予測	(社会状況、法改正、規制緩和、周辺の状況等や今後の予測) 金機まちづくり計画区域内の交通利便性向上を目指し、道路の整備進捗に伴う住み良いまちづくりの実現を図っている。
事業に対する住民の意見	(意識調査・議会質疑等、事業に対する期待・要望・苦情など) 開発行為等施行者に対する開発負担等が多であるといった意見がある反面、道路及び水路等の生活環境の改善要望も多い。

■項目別評価・今後の課題

評価項目	評価結果 (該当にチェック)	判断理由・評価コメント (具体的に記入すること)
必要性 (市民ニーズ)	<input type="radio"/> ① 必要性が高い	大雨時、当区域は冠水・浸水被害が発生するため、地域住民からは市道の高上げや拡幅等による生活環境整備の要望が高い。
	<input type="radio"/> ② どちらかといえば必要性がある	
	<input type="radio"/> ③ 必要性が低い	
	<input type="radio"/> ④ 必要性がない	
妥当性 (市で行わなければならないか)	<input type="radio"/> ① 市が行わないといけない	市が幹線道路及び水路等の骨格的な公共施設を都市計画事業により整備する方策である。
	<input type="radio"/> ② どちらかといえば市で実施	
	<input type="radio"/> ③ 必然性が低い	
	<input type="radio"/> ④ 必然性がない	
効率性 (事業の手法は効率よいが、コスト削減の余地はないか)	<input type="radio"/> ① 効率的である	金機地区基本計画に基づき幹線道路及び水路等の整備を実施しているが、開発状況に応じて段階的な整備実現となる。
	<input type="radio"/> ② どちらかといえば効率的	
	<input type="radio"/> ③ どちらかといえば非効率的	
	<input type="radio"/> ④ 非効率的	
緊急性 (他事業に優先し、実施する必要があるか)	<input type="radio"/> ① 緊急性が高い	同地区は冠水・浸水被害のある地域である為、幹線道路と下水路は先行的に整備する必要がある。
	<input type="radio"/> ② 比較的緊急性がある	
	<input type="radio"/> ③ 緊急性が低い	
	<input type="radio"/> ④ 緊急性はない	
成果 (目的の達成状況)	<input type="radio"/> ① 成果が上がっている	道路整備における幅員拡幅や水路の浚渫等により、同地区における生活環境整備が整えられている。
	<input type="radio"/> ② どちらかといえば上がっている	
	<input type="radio"/> ③ どちらかといえば上がっていない	
	<input type="radio"/> ④ 成果は上がっていない	
今後の課題	開発行為等施行者に多大な費用負担がかかる場合があり、区域内における開発・整備等が進捗しない状況がある。	

■一次評価 (評価点は目安とし、総合的な評価をすること)

評価	事務事業の方向性	1 拡 充 す る		80 点 以上	評価点による判定	判定に至った理由	
		2 現状のまま継続する	3 改善・効率化し継続	60～79点			
2		4 見直しの上縮小する	5 終期設定し終了	30～39点	72	幹線道路・水路等の骨格的な公共施設を都市計画事業により先行的に整備を行っているが、更に開発行為等を促進する為に都市計画マスタープランの地区計画に位置付ける方法等を検討する必要がある。	
		6 休 止	7 廃 止	20～29点			
				19 点 以下			2

■改善・効率化・見直しの方向性 ※一次評価の判定が3・4の時は、必ず記入すること。

【具体的な改善等取組内容 (方向性・対象・手段等について記述)】
----------------------------------

■二次評価 (所管担当の一次評価を、総合評価し判定すること)

評価	事務事業の方向性	1 拡 充 す る		判定説明
		2 現状のまま継続する	3 改善・効率化し継続	
2		4 見直しの上縮小する	5 終期設定し終了	金機まちづくり計画区域内における公共・公益施設を整備し、同地区の住み良い環境づくりを図る為に、都市計画マスタープランの地区計画に位置付ける等、事業の推進を検討することが必要である。
		6 休 止	7 廃 止	